

ドレープド・スカートのドレープ分量が視覚官能値に与える影響

○三木幹子* 山田知里** 綾田雅子** 丹羽雅子*³(*広島女学院大, **共立女短大, *³奈良女大)

<目的>力学特性の異なる16種の布で、ドレープ分量を一定にしたドレープド・スカートを製作し、静的および動的なドレープの美しさに関する官能検査を行い、布の基本的力学特性を用いて精度よく視覚官能値を予測できることはすでに確認した¹⁾。本報ではドレープド・スカートのドレープ分量が視覚評価に及ぼす影響を明確にするため、ドレープ分量の異なるサンプルについて動的官能検査を行い、素材の力学特性とドレープド・スカートの動的ドレープの美しさとの関係を捉えることを目的とする。

<方法>既報において、動的視覚評価が高かった試料布および低かった試料布について、ドレープ分量を5段階に変化させ、また構成方法によるドレープの違いを検討するために、タック数を4本と10本の2段階に変化させたドレープド・スカートを製作した。これらのサンプルを9号サイズの人が着装し、一定距離を歩行したときの動的ドレープの美しさについて、SD法を用い、5段階による視覚官能評価を行った。被験者は20歳代の女性34名である。

<結果>既報で評価の高かった、適度な硬さと弾力を持った試料布で製作したタック数4本のスカートの場合、ドレープ分量が変化しても評価値は高く、有意な差は認められなかった。しかし、タック数を10本にした場合は、ドレープ分量が多くなると、ひだが角張り不規則になるため評価値が低くなる傾向が見られた。前回評価の低かった、曲げ柔らかく弾性に欠ける試料の場合、ドレープ分量を125%にすると評価が高くなるが、その後はドレープ分量の増加にともない評価は低くなり、ドレープド・スカートの最適面積の存在が認められた。以上、素材の力学的性質に応じたドレープ分量によって、最適なドレープの美しさが得られることが示唆された。

¹⁾ 三木幹子, 山田知里, 綾田雅子, 丹羽雅子(1998)日本家政学会第50回大会研究発表要旨集, 197